

## 高病原性鳥インフルエンザ特別防疫対策期間に向けて

熊本県では、例年11月から4月までの期間を、高病原性鳥インフルエンザ（以下、HPAI）の発生リスクが高くなることから、高病原性鳥インフルエンザ特別防疫対策期間と定め、防疫強化にあたっています。

一昨年度、昨年度と国内でHPAIの発生が確認されていますが、一昨年度は10月24日に北海道で回収された野鳥の糞便からH5N8亜型ウイルスが検出され、11月5日には香川県の採卵鶏農場においてHPAIが発生。また、昨年度も11月8日に鹿児島県出水市のツルのねぐらの水からウイルスが検出されており、11月10日に秋田県、11月13日に鹿児島県で発生しています。

これらの事例からも、HPAI発生予防に向けた対策は、11月に入ってからではなく、11月に入る前に済ませておき、11月から翌年4月までは、維持する必要があります。

熊本県では、防疫強化対策の一つとして、一斉に自己点検を実施するよう県内の養鶏場（小規模含む）に通知しています。内容としては、飼養衛生管理基準の中で、農場内及び家きん舎内にウイルスを持ち込まないために特に重要な以下の項目となっています。

※括弧内は飼養衛生管理基準の項目番号

### ○衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等（13）

- ・衛生管理区域の出入り口に手指消毒用スプレー又は区域内専用手袋等を設置

### ○衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用（14）

- ・衛生管理区域の境界に更衣室等を設置し、専用の衣服及び長靴に着替えてから入場

### ○衛生管理区域に立ち入る車両消毒等（15）

- ・動力噴霧器、車両消毒槽等を用い、車両を消毒



### ○家きん舎に立ち入る者の手指消毒等（20）

- ・衛生管理区域だけでなく、各鶏舎に手指消毒用スプレー又は鶏舎内専用手袋等を設置

### ○家きん舎ごとの専用の靴の設置及び使用（21）

- ・各鶏舎に、専用の長靴を設置（鶏舎外では使用しない）

### ○野生動物の侵入防止のためのネットの設置、点検及び修繕（24）

- ・鶏舎壁の破損部位及びネットのほつれ、穴等を修繕



### ○ねずみ及び害虫の駆除（26）

- ・トラップ（粘着シート等）の設置、飼料の漏出防止及び保管場所の変更

これらの内容について、不備がある点については早急に対応をよろしくお願いします。

# 寒冷対策で事故を防ぎましょう！

夏の暑さも落ち着きをみせ、朝晩が肌寒くなるとともに、日中との温度差も大きくなり、家畜はもとより人間にとっても体調管理が難しい季節になってきました。夏の終わりから秋にかけて、特に事故率が上昇します。これは、夏季に蓄積された疲労、急激な気温の低下及び1日における気温差によるストレス等が原因として考えられます。そのため、秋入りするこの時期から寒冷対策が必要となります。

## 1 飼養管理について

### <子牛の管理>

- 代用乳の給与量を、夏より少し増やす
- 給与時、乳が冷めないよう注意

### <風に注意>

- 風が直接身体に当たらないようにする  
(カーフハッチの入口を風上に向けない等)
- 入口固定の場合はベニア板等を活用し、風の進路を防ぐ
- 畜舎、ハッチ、畜房等に隙間風が入らないよう、隙間を全て塞ぐ

### <床の状況>

- 床が湿っている場合は長時間放置せず、すぐに交換
- 敷料は豊富に投入し、交換頻度を高める
- ベニア板を敷くなどで腹冷えを防ぐ（特に繁殖母豚）



カーフジャケット及びネックウォーマー着用牛(岩手県)

## 2 保温器具の活用、管理について

- 上記の事柄に不備があると、家畜用暖房器具の効果は激減するので注意
- 子牛へのカーフジャケット、ネックウォーマー等の使用
- 豚舎、鶏舎におけるヒーター、ブルードー等の点検、整備

### ※密閉による換気不足に注意！

- アンモニア等が畜舎にたまり、呼吸器系に障害を及ぼす危険性
- 養鶏においては、換気不足により鶏舎内気温が上昇し、熱死や鶏の移動による圧死等の事故が起こる危険性

## 近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	発生地(国)	畜種	発生日月
アフリカ豚熱 (ASF)	ロシア	豚	令和4年7月25日

令和4年(2022年)9月29日現在

### 家保職員から一言



今月の6日~10日に、5年に一度の全国和牛能力共進会が鹿児島県で開催されます。熊本県からは「美津福重」の牛が出品される予定です。ブースが鹿児島県の隣とのことなので、色々と注目されそうですね！他県の牛や系統の情報を直に聞くことができる、めったにない機会なので、私も個人的に参加しようと思います。